

学習指導と生徒指導が一体化した授業づくり

～授業を通して自己指導能力の獲得を支える～

1. 生徒指導の現状
2. 学習指導と生徒指導が
一体化した授業作り
3. 5年生の実践
4. 若手教員の変容
5. 課題



京都市総合教育センター
研究課 研究員 太田 耕二

1 生徒指導の現状

2 学習指導と生徒指導が一体化した
授業づくり

3 5年生の実践

4 若手教員の変容

5 課題

6 質疑応答

1 生徒指導の現状

2 学習指導と生徒指導が一体化した
授業づくり

3 5年生の実践

4 若手教員の変容

5 課題

6 質疑応答

みなさんは今日
「生徒指導」されましたか？

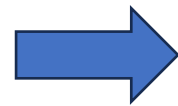
それは、どのような内容でしかた？

教師と子どもたちの関わり

- ・ 雑談
- ・ 給食時間
- ・ 中間休み・昼休み
- ・ 行事やその準備



・ 授業



大きな教育効果



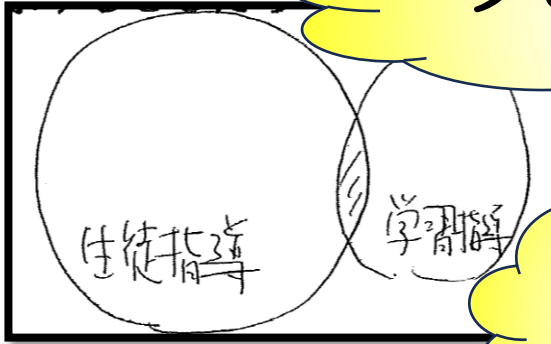
－ 自己認識の時間 －

**「学習指導」と「生徒指導」の関係を
絵・図に表してください。**

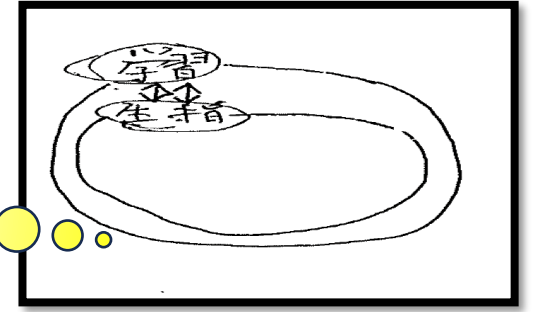
その絵・図にした理由を考えてください。

若手教員の抱くイメージ例(6月)

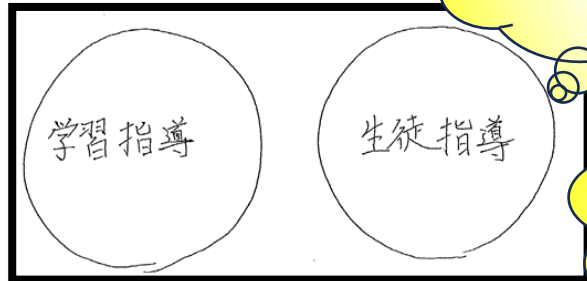
少し重なっている



つながっている



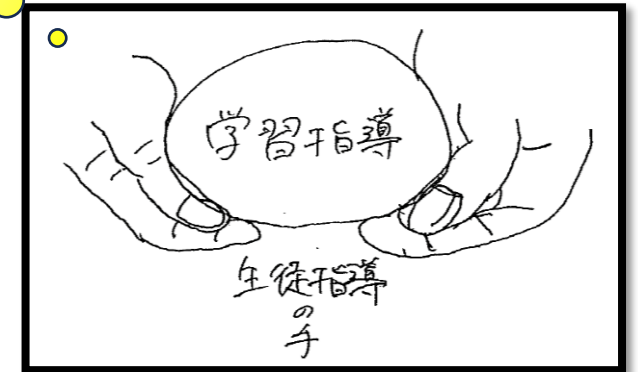
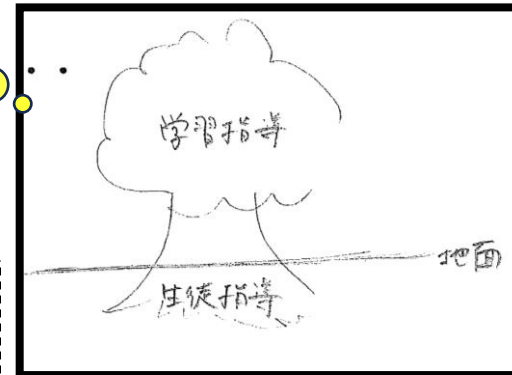
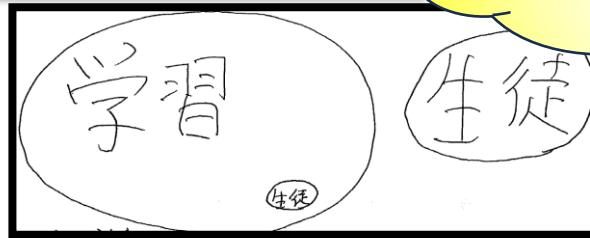
2つのこと



両方で包むように育む



生徒指導が土台
その上に学習指導



※若手教員…研究実践校(京都市立の小学校)において
実務経験が主に1年～5年の教員、計10名

生徒指導の定義と目的

「生徒指導提要(改訂版)(2022)」から

生徒指導の定義

生徒指導とは、**児童生徒**が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと**自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動**のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて**指導や援助**を行う。

生徒指導の目的

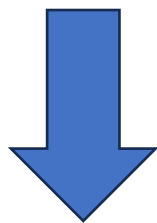
生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる**自己実現を支える**

自己指導能力の獲得

「生徒指導提要(改訂版)(2022)」から

生徒指導の目的を達成するために

自己指導能力

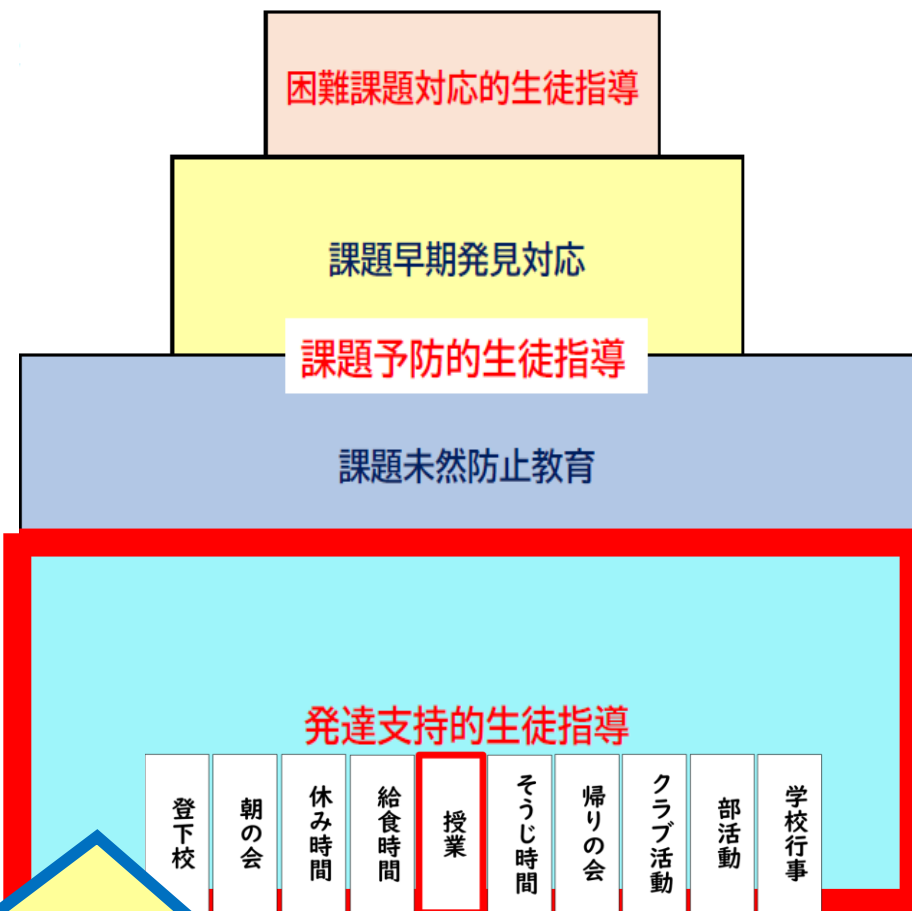


深い自己理解に基づいた自己目標達成のために、自発的・自律的かつ他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力

生徒指導=自己指導能力の獲得を支える
この研究実践では
⇒「授業」の中で支える



児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、その発達の過程を学校や教職員がいかに支えていくかという視点に立つ。



1 生徒指導の現状

2 学習指導と生徒指導が一体化した
授業づくり

3 5年生の実践

4 若手教員の変容

5 課題

6 質疑応答

若手教員が学び合う研究実践

＜若手教員を取り巻く実態＞

問題行動の対応

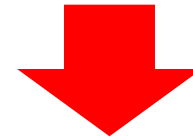
教材研究の
時間がとれない

保護者との関係が
築けているか不安

全てに余裕がない



若手研修会の発足：問題行動の防止、授業作りでの悩み解消 など



学習指導と生徒指導が一体化した授業づくり

若手教員の授業での悩み

- ・ ペア交流やグループ交流の意図が明確でない。
- ・ 児童の誤答に対する返し方や、発言のつなげ方に困っている。
- ・ 一部の児童の発言だけで授業を進めてしまう。
- ・ 多様な考えを引き出す問いの工夫が難しい。



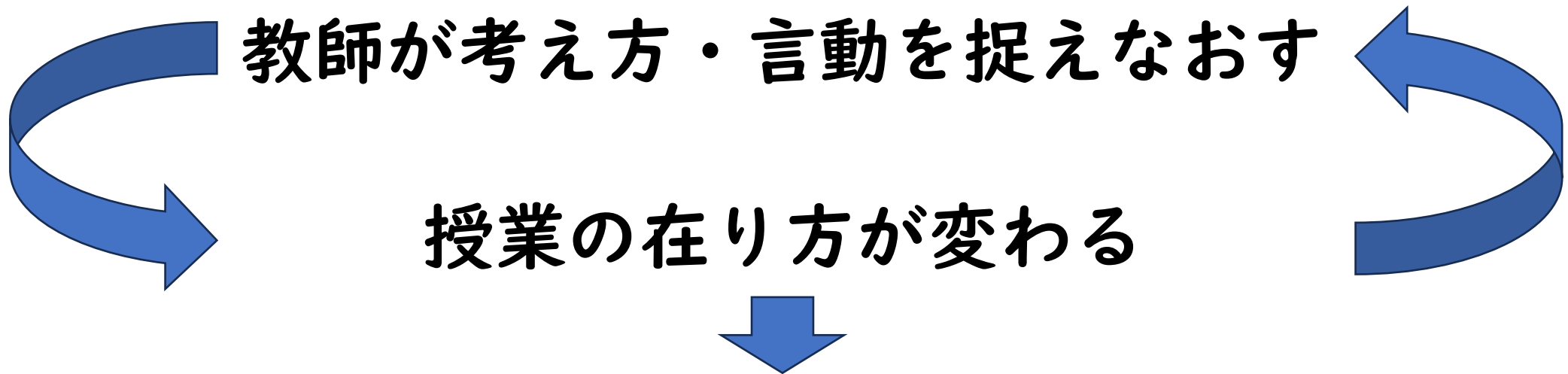
授業における生徒指導の二側面



本研究の提案

『生徒指導内在化サイクル』

クラスや児童の実態把握の上で目指すべき姿を明確にし、その実現に向けて、授業に生徒指導の4つの視点に奏効する工夫を組み込み、授業実践を行い、実践後に振り返りを行うものである。このサイクルを繰り返すことで、学習指導を行う中で、生徒指導の機能も働かせ、両者の充実を図っていく。



子どもたち一人一人の自己指導能力の獲得

「生徒指導内在化サイクル」の概要

児童・教員
アンケート

教員チャレンジ
シート

授業づくり
シート

自己指導能力の
獲得を支える

事後検討会

授業実践

アセスメント
主観的児童理解
＋
客観的児童理解



授業づくりにおける生徒指導の実践上の4つの視点【全8項目】

自己存在感の感受

- ①「わかる授業」・「面白い授業」になるような工夫
- ②児童の実態を把握し、どの場面で児童を生かすかの工夫



共感的な人間関係の育成

- ③友達の考えを最後までしっかりと聞き、受け止められるような声かけ
- ④一部の児童だけで授業を進めず、つぶやきや誤答を大事に生かしたコーディネート



自己決定の場の提供

- ⑤一人学びの時間を確保し、ペア・グループ・集団で互いの考えを共有し、自分の考えをより確かなものになるよう機会や場の提供
- ⑥多様な考えを引き出す発問の工夫



安全・安心な風土の醸成

- ⑦机間指導で習熟度合いに応じた声かけ
- ⑧良い点や成長を実感できるように声かけをし、失敗や間違いを恐れずにチャレンジできる場の提供



第1回『道徳科』授業づくりシート

5年 1組 指導者(〇〇 〇〇)

- 1 日時 令和6年7月15日
- 2 単元名・教材名【 新れたタワー 】
- 3 本時の目標
 - 誰にでも失敗があることを理解したうえで、相手の失敗を許そうとするひろしの思いを伝えることを通して、相手の立場になって、思いやりで許そうとする心育を育てる。
- 4 生徒指導上の意識項目【 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 】※複数選択可 ◎重点項目【 ⑥ 】

高学年の授業づくりにおける生徒指導の実践上の4つの視点【全8項目】を参考にし、授業の中で意識して取り込むことを記述する。

生徒指導上の意識項目のなかから特に力を入れて指導にあたる重点項目を1点記述する。

○学習活動	生徒指導上の留意点	参観メモ
・予想される児童の反応	◎重点項目	
導入 日常生活での例をテレビに映し、問う。 めあて 思いやりについて考えよう	・日常の場面を取り上げ、ねらいとする価値につなげようとする。	
展開 「謝っても許してくれそうもない時のひろしは、どんな思いだったでしょう。」 「自分がひろしだったらのりおを『許さない』『許そう』を考えよう。」 ◎どうしてひろしは、のりおを許そうとしたのでしょうか。	自分の立場を明確にして話し合えるよう、心算メーターを操作する。 ◎「何でも許すことが正しいのか?」などと問い返し、問い返す。	
終末 「今日の学習を終えてひろしから学んだこと、これからの自分にいかしていききたいことなどを振り返りに書きましょう。」	最後にもう一度心算メーターの割合を確認し、変更したい児童には声をかける。	

グループ事後検討会を終えてから授業者、参観者が記入する。
授業者は、良かった点や改善点、子どもの変化や新たな気づきなどを記入する。
参観者は、参観・検討を終えて気づいたことや自分にも取り入れていきたいことなどを記入する。

グループ事後検討会を終えての振り返り

重点項目に答えていた問い返すことで、思いやりについての考えが広がり、多様な意見交換につながった。
子ども達がたくさん発言し、つぶやいてくれたが、どの意見を取り上げたらいいのか分からなくなった。
明日からは本時の目標を常に意識し、その目標に近づき子どものつぶやきを大切に、子どもと一緒に授業をつくっていきたい。

↑教師のための「支える視点シート」

「教員チャレンジシート」の活用

☆教員チャレンジシート☆

生徒指導と授業の
2本柱で創る学級

年 組 担任 ()

7月のクラスの現状→アンケートより 4つの視点のうち
"共感的な人間関係の育成"が 一番伸びてあり！

目標

2 学期

子どもどうし お互いを認め、認められる気持ちになる

ような授業をします！

手立て

手立て案

授業の中で、子どもの名前を正確に呼ぶから 意見を言わせる。

ex) ○○さんの意見がポイントだね！ この考えは○○さん
○○さんの考えも正しいね。 正しいね、すごい！

○○さんの意見のおかげでみんなが達成できたね！

学級の現状

目指す授業像

手立て

「支える」視点シート

※生徒指導提要・生徒指導三機能チェックリストを参考に作成

「支える」視点シート



自己存在感の感受

- 「わかる授業」・「面白い授業」になるような工夫
- 一部の児童だけで授業を進めず、つぶやきや誤答を大事に生かしたコーディネート

- ・ワクワクするようなめあての設定
- ・全員参加が出来る問いの設定

自己決定の場の提供

- 一人学びの時間を確保し、ペア・グループ・集団で互いの考えを共有し、自分の考えをより確かなものになるよう機会や場の提供
- 多様な考えを引き出す発問や問いの工夫

- ・自分の意見が書き込めるワークシート
- ・わざと教員が間違え、深める



共感的な人間関係の育成

- 友達の考えを最後までしっかりと聞き、受け止められるような声かけ
- 発言をつなげ、集団での学び合いになるようなコーディネート

- ・意図的な話し合いの場の設定
- ・反応「あいうえお」を取り組む

安全・安心な風土の醸成

- 良い点や成長を実感できるように声かけをし、失敗や間違いを恐れずにチャレンジできる場の提供

- ・褒めるではなく認めている声掛け
- ・人権に関わる発言を見逃さない

提案版に
若手教員が
自ら加筆

授業づくりシート

『道徳科』授業づくりシート

指導者（ ○○ ○○ ）

1 日時 令和6年7月15日 5校時

2 学年・組 5年4組 （児童34名）

3 学校教育目標・学級目標

学校教育目標

夢に向かって 自分を大切に し 他とのつながりを大切にできる子の育成
～一人一人が輝き 愛される子の育成～

学級目標

4 児童の実態・本時の設定理由（7月時点）

話し合い学習では、自分とは違う意見から学ぶ楽しさや大切さを感じながら学習している児童も多い。しかし一方で、自分の考えが絶対に正しいと主張して譲れない姿や、友だちの失敗に対して過敏に反応する姿も見られる。その一部の児童が休み時間の遊びも強引に決めている様子もある。本時では、相手の意見を最後まで聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考えようとする姿勢を育てていきたい。そうすることで、学級目標である優しさがあふれるクラスにつながると考えている。

5 本時について

（1）教科 道徳科

（2）題材名 折れたタワー

（3）生徒指導上の重点項目（「支える」シートより）

「共感的な人間関係の育成」

○発言をつなげ、集団での学び合いになるようなコーディネート

相手の意見を最後まで聞き、相手の立場に立って考え、深めようとする姿勢を育てていきたい。自分の意見しか認めないような発言が出た際に、教師が反対意見を述べることで、学び合いにつなげる。

学校教育目標と
学級目標を記入

事前アンケート
と普段の様子を
もとに、児童の
実態を記入

生徒指導の実践上の
4つの視点について、
重点化して取り組む
手立てを記入

（5）本時の展開

【自己決定の場の提供^決 自己存在感の感受^存 共感的人間関係の育成^共 安全・安心な風土の醸成^安】

「◇支援、＊留意点、○個別支援」の欄に
工夫のねらい、生徒指導の実践上の4つの
視点を記号で記入

例）◇自分の立場を明確にして話し合える
よう、心情メーターを操作する。^決
（^決：自己決定の場の提供）

展開

○自分がひろしだったらどうするかについて考え、話し合う。

◆のりおが謝っても許してくれそうもない時のひろしは、どんな思いだったでしょうか。
・なんで許してくれないのか。気持ちがしんどい。

◆自分がひろしだったら、のりおを『許せない』か『許そう』を考えましょう。
・許せない。以前に同じようなことでひどいことを言われたから。
・許そうと思う。以前に自分がひどいことを言われて傷ついたから。同じ思いをさせたくない。

○ひろしがのりおを許そうとした理由を想像し、話し合う。
◆どうしてひろしは、のりおを許そうとしたのでしょうか。
・相手（のりお）のことを考えたから。
・誰にだって失敗してしまうことがあるから。

終末

○今日の学習で学んだことや考えたことを振り返る。
◆今日の学習を終えてひろしから学んだこと、これからの自分にいかしていきたいことなどを振り返りに書きましょう。

＊許してもらえなかった時の気持ちに触れることで、タワーを壊したのりおに対する許すことができない気持ちにつなげる。

◇各自、自分の立場を明確にして話し合えるよう、心情メーターを操作し、自分の考えの根拠を明確にする。^決

＊これまでの学習場面で取り上げてきたペアでの話し合いをすることによって、お互いの良さに気づき、認め合えるようにする。^共

「何でも許すことが広い心なの？」などと問い返す。^決

◇終末にもう一度導入場面を想起させることにより、ねらいとする価値につなげようとする。^決
◇授業の終末にみんなの意見を聞く中で、もう一度心情メーターの割合を確認し、変更したい児童には声をかける。^決

1 生徒指導の現状

2 学習指導と生徒指導が一体化した
授業づくり

3 5年生の実践

4 若手教員の変容

5 課題

6 質疑応答

学級担任によるアセスメント

学級全体

話し合いによる学習がうまくいかない。

自分の意見を伝えるだけになってしまったり、相手の答えをそのまま聞いて写したり、対話から深い学びにつながっている子が少ないように感じる。

焦点化児童(2名)

○A児

学力は高いが授業の満足度が低い

(※事前アンケートの結果と担任の見取りにギャップがある)

○B児

級友とのつながりを築きにくい

(※遅刻や欠席が目立ち、級友との関わりが少ない)

どのような授業にしたいか（目指す授業像）

自分（教師）が多くを話さず、児童が思いや考えをつなげて創り上げる授業を目指すことで、児童の自信と自己肯定感を育めるようにする。

学習指導上の具体的な手立て

- 多様な考え方が想定される問いなど、協働的な学習につながる問いの提示（例：三角形を作図する方法を考える 等）
- ペアトークなど、児童が気づきや考えを伝え合い、互いに補い合える協働的な学習場面の設定

本時の学習展開 —授業づくりシートの活用—

教科指導の目標

合同な三角形をかくための見通しを立て、かき方を理解し、作図することができる。

授業の中に
意図的に内在化

生徒指導上の重点

「共感的な人間関係の育成」

教師主導で教えることにこだわらず、児童が難しさを感じている単元だからこそ、児童同士で認め合い、補い合うことを大切にする。



「共感的な人間関係」が育まれた場面【A児】

○協働的な学習につながる問いの提示

A児：私は、三角形をこうかいたよ。

（コンパスを使って作図する方法）

C児：私はAさんと違って、こうかいたよ。

（分度器を使って作図する方法）

A児：それでもかけるんだ。この辺とか角は、
何を使ったの？



新たな気づき、理解の深まり ⇔ 共感的人間関係

「共感的な人間関係」が育まれた場面【B児】

○協働的な学習場面の設定

⇒ 自由な相手とのペア交流

B児：ここまでは、できたんだけど、
ここからがどうしたらいいか
分からない。



D児：ここからが難しいよね。私は、こう考えたよ。

つまずきの自己開示 ⇔ 安全・安心な人間関係 ⇔ 自己有用感

事後検討会 ―若手研修会メンバーによる振り返り―

<授業者>

- ・B児が集団解決の時に手を挙げて発表するのは、今年度初めてでした。驚いたと同時にすごく嬉しかったです。この授業を考え、実践できてよかった。自由度の高いペア交流はB児にとっては有効だったと思います。

<参観者>

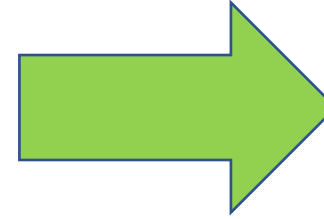
- ・振り返りの記述に「〇〇さんのおかげで」という言葉が多く見られました。「先生のおかげで」ではなく、子どもたち同士で学び合う姿を見せていただきました。
- ・ペアやグループで話し合う際に、教師の意図をはっきりとをもっておかないと、その時間の充実度が変わると思いました。

「生徒指導内在化サイクル」のリレー

児童・教員
アンケート



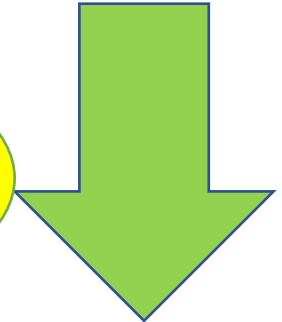
教員チャレンジ
シート



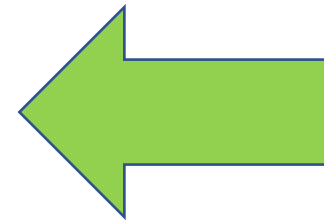
授業づくり
シート



自己指導能力の
獲得を支える



事後検討会



授業実践



校内の人材をいかした検討会の活性化

若手教員＋研究員（生徒指導面）



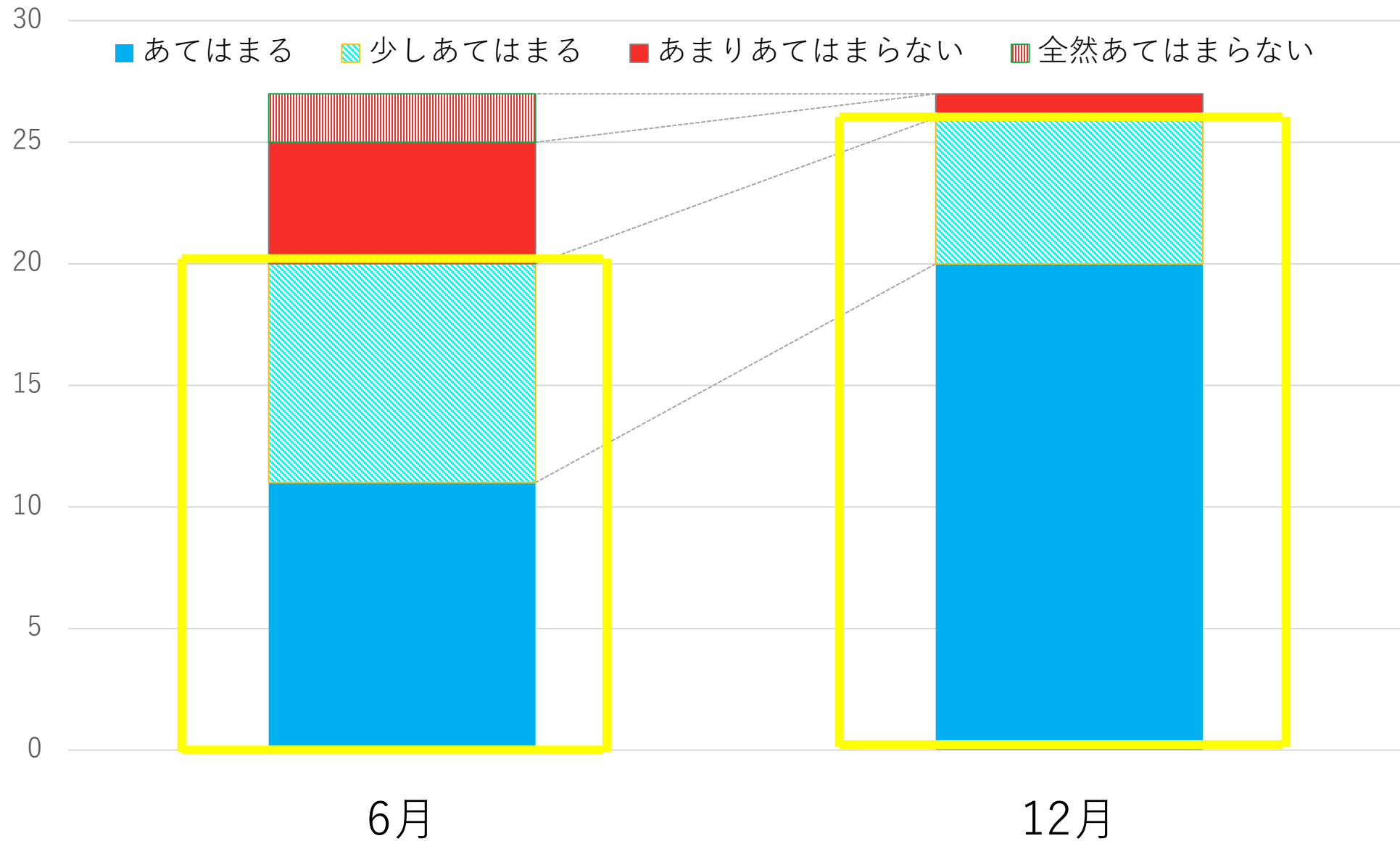
若手教員＋研究員（生徒指導面）＋ **ベテラン教員1名（教科指導等の助言）**

メリット

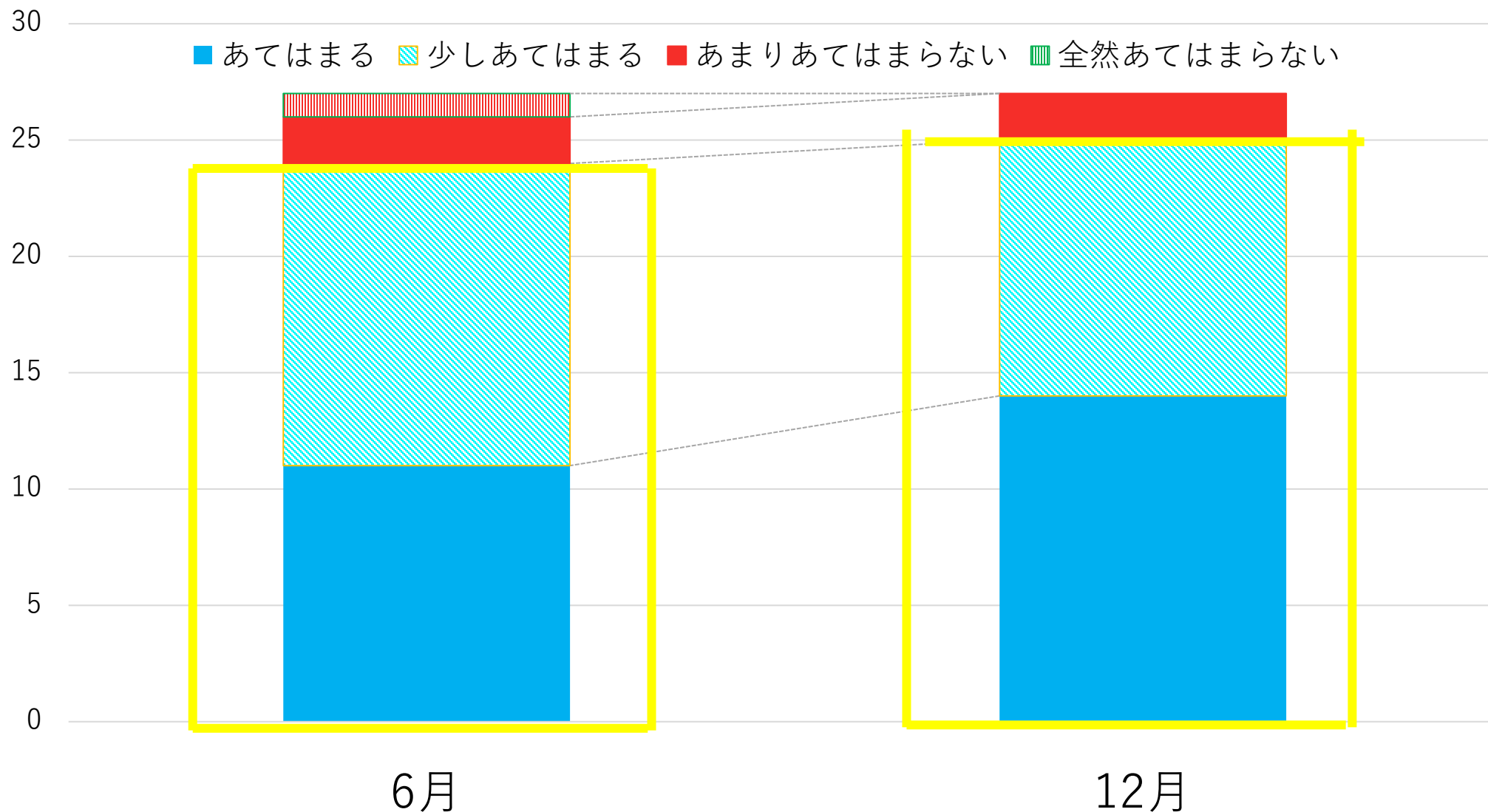
- ・教科指導と生徒指導の両方の視点から協議
- ・ベテラン教員の再意識化、学び直し
（例：学習指導要領の再読 etc.）



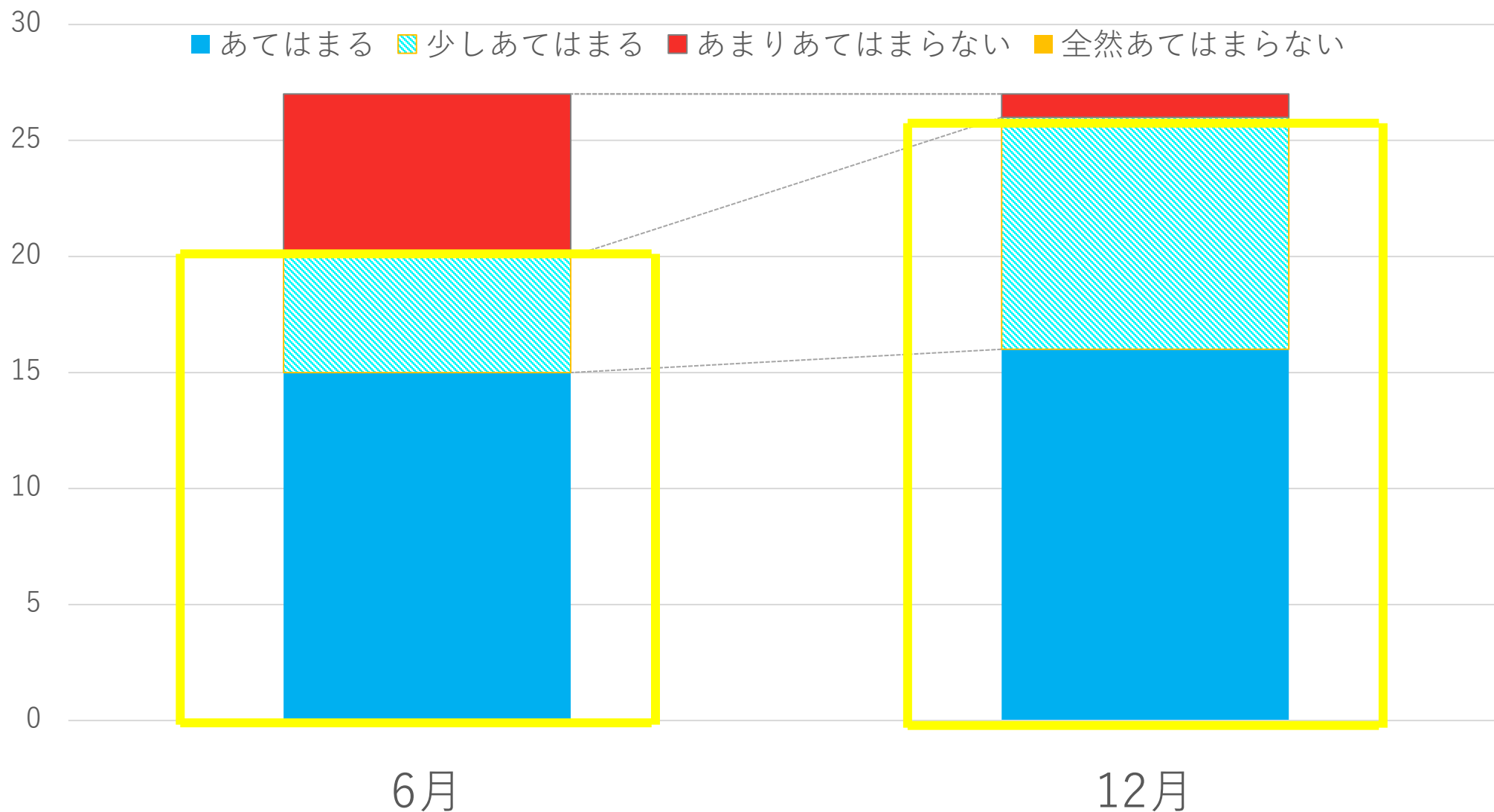
Q1 先生や友達は、自分の良いところを認めてくれる。



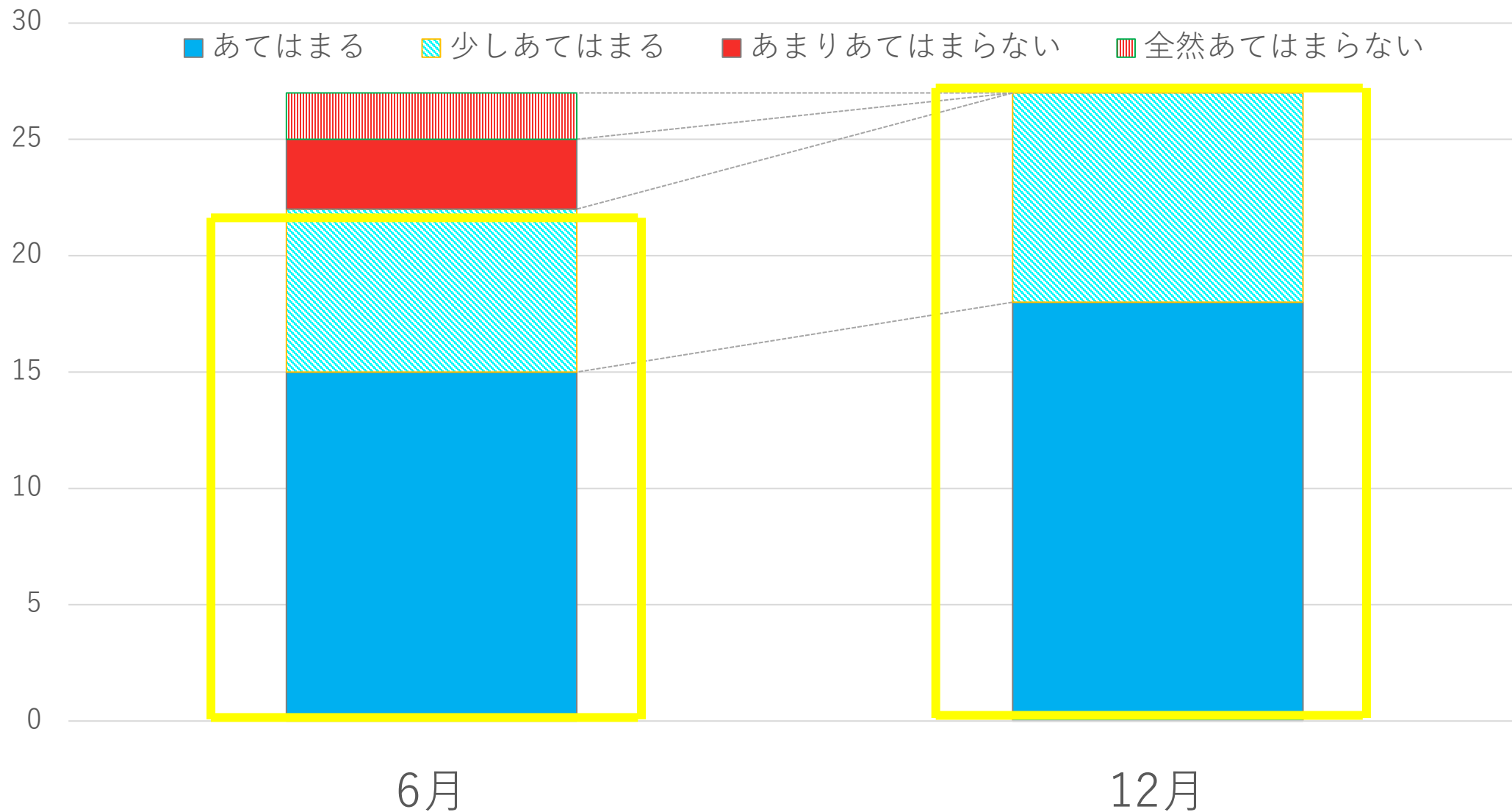
Q2 自分の考えを伝えたいと思える場面や機会がある。



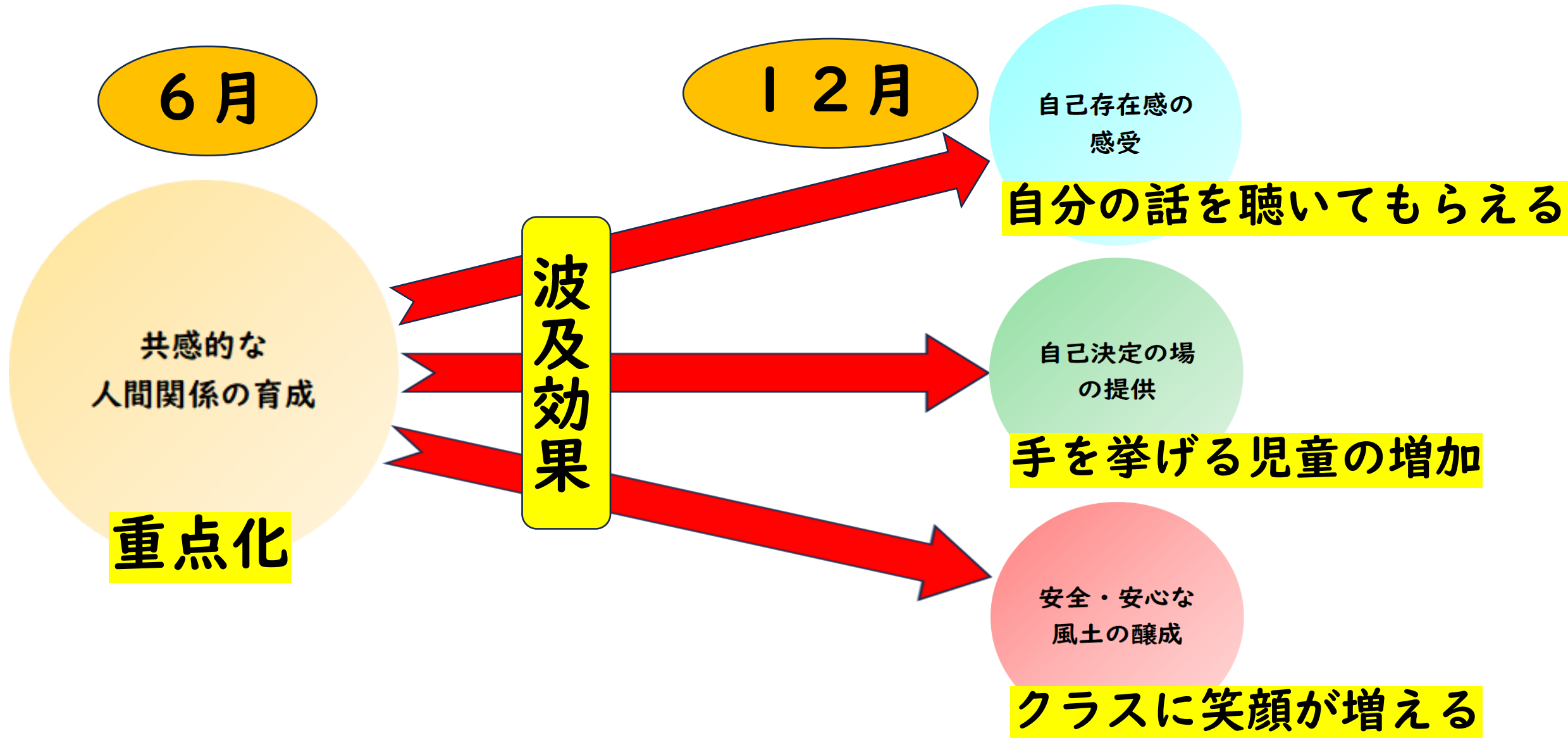
Q3 クラスみんなで授業がつくれている。



Q4 クラスの居心地がいい。



重点項目の波及効果 – 他の3項目への広がり –



実践全体をとおした子どもの変容①

－若手教員の気づき－

- ・ 自分から周りの友達に分からないところを聞いたり、自分の意見を**自信をもって**発表できるようになったりしたところ
- ・ 先生がいなくても、**子どもたちで話し合い、次の行動を考え、行動することがある。**
- ・ 自分の気持ちだけでなく、**相手のことも考えながら選択したり決断したり**していた。
- ・ **あきらめずに**取り組む姿、**何度も工夫を重ねる**姿、**丁寧に**他者と取り組もうとする姿
- ・ **挑戦**する姿や諦めないで**粘る**姿、**相手の気持ちを考えて行動できるようになった姿**
- ・ **聞く姿勢**について、授業中に児童が発表する時、周りの児童は発表する児童の方に体を向けて、目を見て話を聞くことができるようになってきたと感じる。

実践全体をとおした子どもの変容②

－若手教員の気づき－

- だめなことだと分かっているけど友達につられてしまうことがあったが、最近**良い声かけ**ができるようになった児童が出てきた。
- 日々の行動が少しずつ習慣化してきたことで、**何をすべきか、どうすべきかを判断し、自分から行動**できるようになってきた。日直の時間になったら前に出る。授業の前には必要なノートを配布する。自分の掃除が終わったら違う掃除を手伝うなど。
- 学校生活でいけないことをしている人に**自ら声をかけている姿**が見られたとき。
- **自分たちで交流して反対意見であっても取入れ、自分たちで考えを決定**している。

1 生徒指導の現状

2 学習指導と生徒指導が一体化した
授業づくり

3 5年生の実践

4 若手教員の変容

5 課題

6 質疑応答

若手教員が獲得したこと

見取る力の向上

学びの相似性

緩効性

- ・子どもたちのことを理解した上で、子どもたちと一緒に授業をつくっていくこと
- ・子どもの頑張りや成長を感じる機会が増えた。子どもを見取る力が向上してきた。私自身、子どもに自己指導能力の獲得を支えるために4つの視点を意識して授業を試みたが、私が授業の中でどのように振舞うかという自己指導能力の獲得にもつながったような気がした
- ・根気強くなった。すぐに成長が見られなくても、長い目で見とる意識が身につけてきた。

学び続ける教師像

- ・子どもと一緒に反応することについて1年間こだわってやれた。反応したくなる仕掛けをこれからも追及していきたい

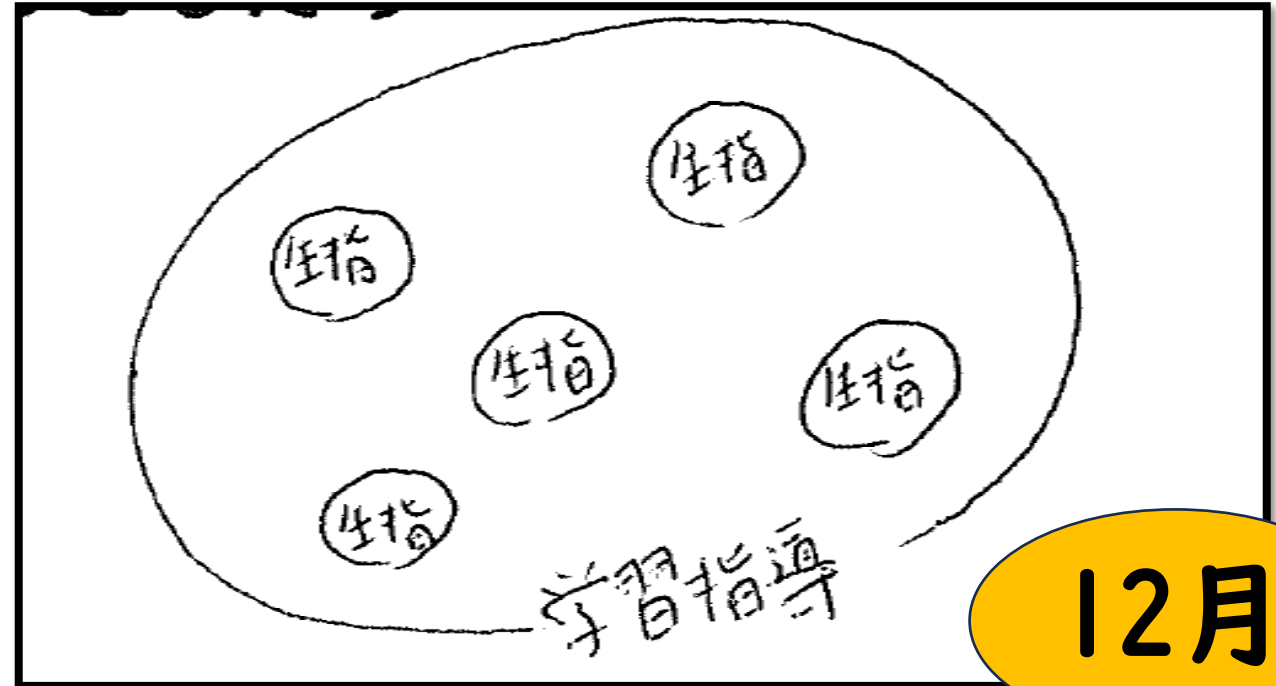
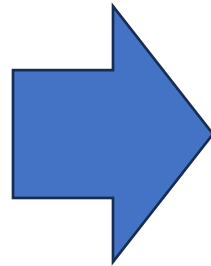
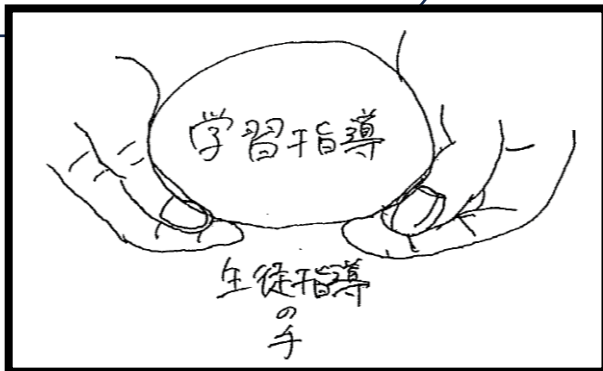
若手研修会メンバーの変容 –学習指導と生徒指導の関係性–①

※ある教員の場合

6月

学習指導は、
授業で行うもの

生徒指導は、
授業外で行うもの



12月

日常の学習指導の中に生徒指導が
ちりばめられている

学習での指導がそのまま生徒指導
につながっている

若手研修会メンバーの変容

－学習指導と生徒指導の関係性－②

6月に抱いていた生徒指導のイメージ

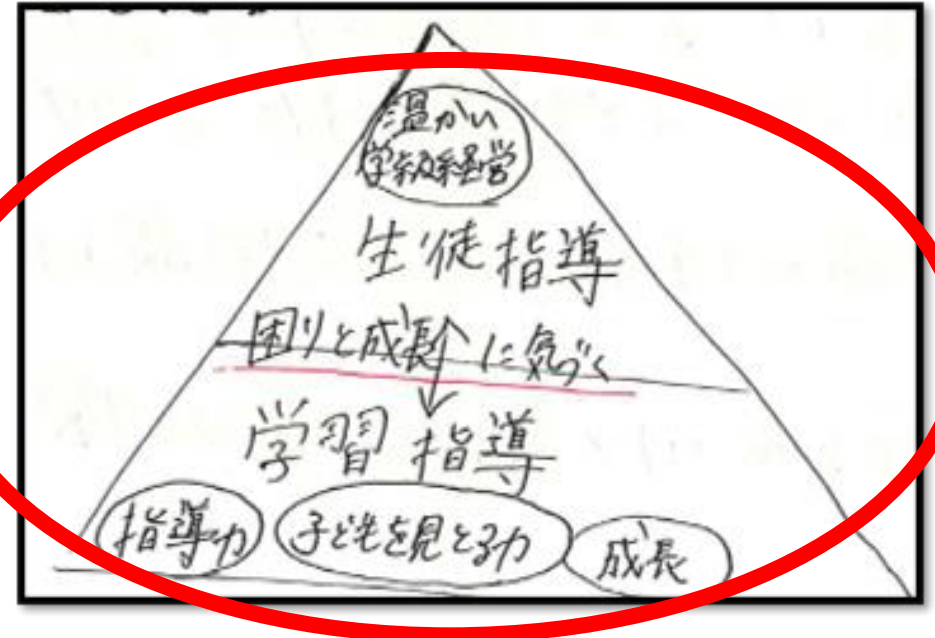
- ・トラブルの解決
- ・決まりやルール
- ・暗くて、怖い、しんどい



別

12月に見えた変容

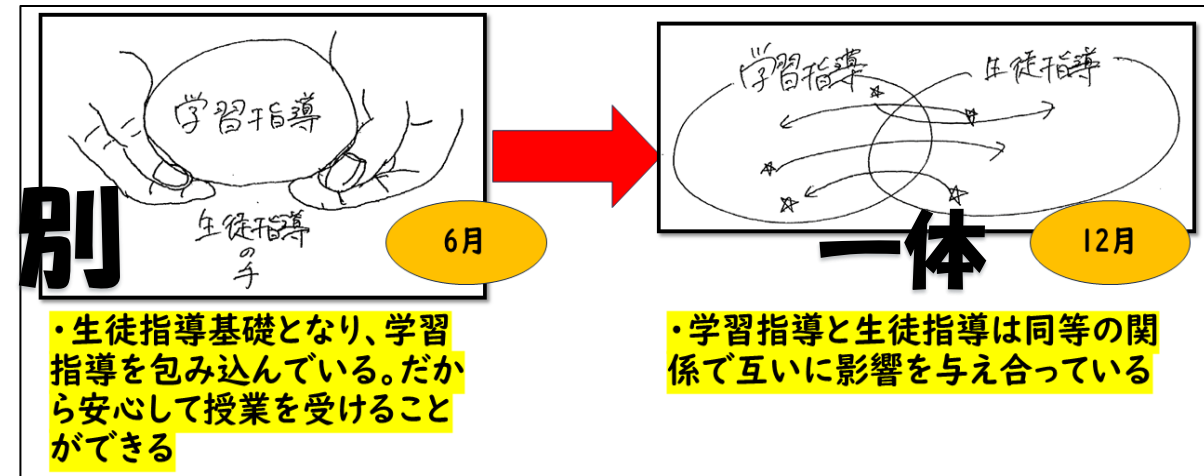
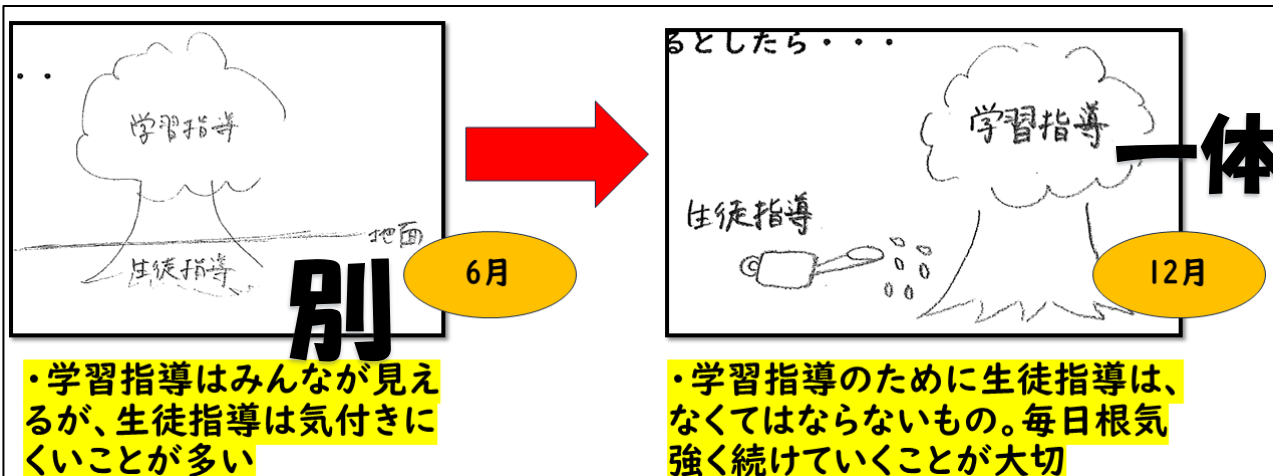
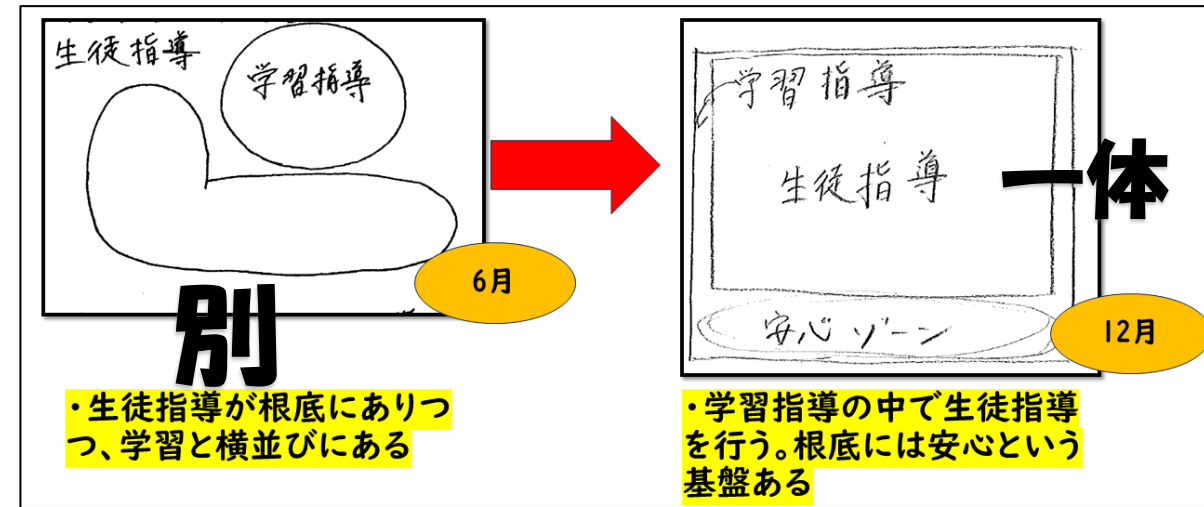
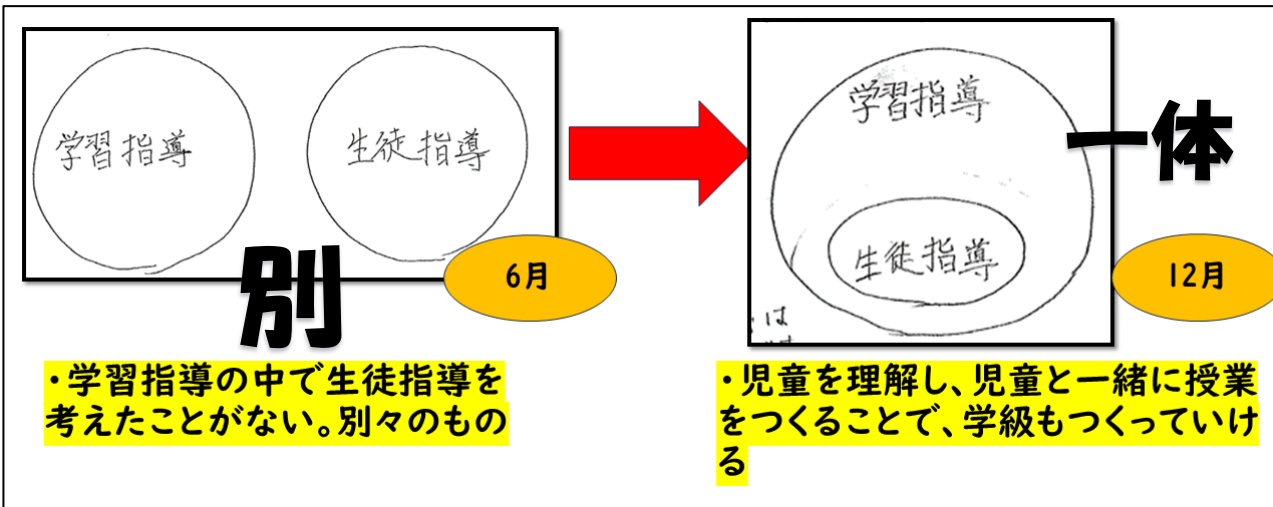
- ・未然防止
- ・児童理解そのもの
- ・授業の中にあるもの



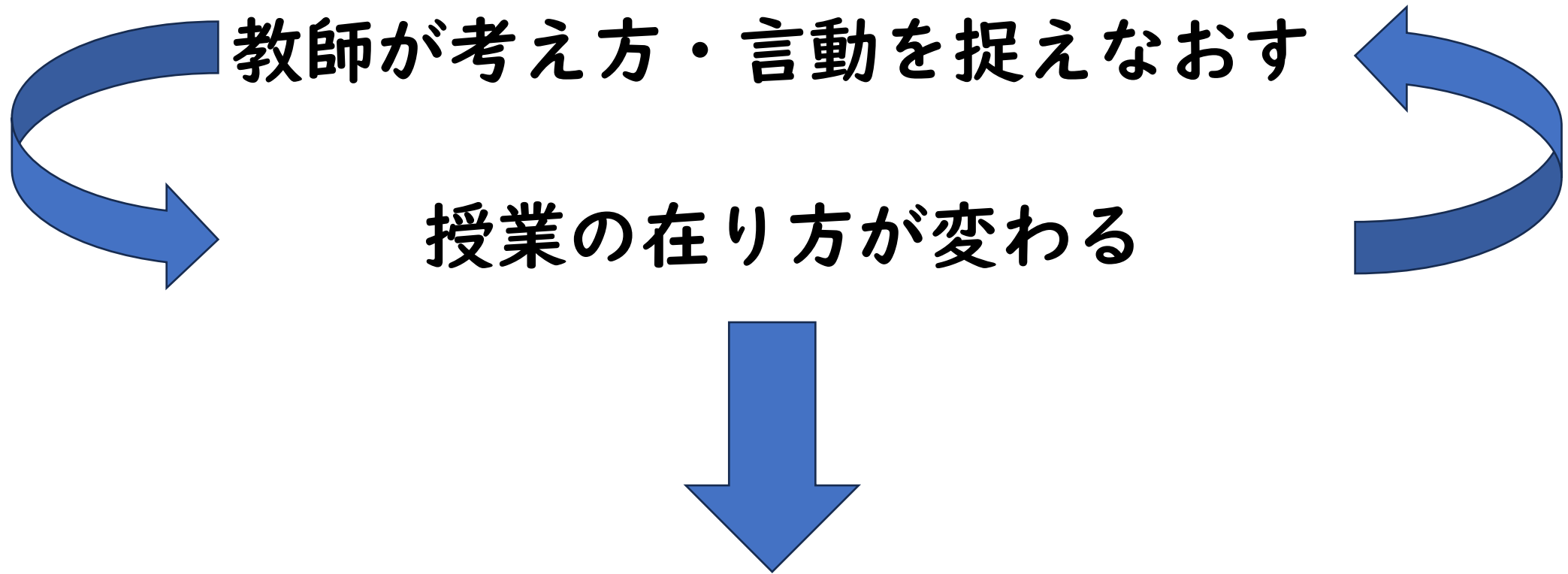
一体

若手研修会メンバーの変容

－学習指導と生徒指導の関係性－③



子どもの変容との関係



1 生徒指導の現状

2 学習指導と生徒指導が一体化した
授業づくり

3 5年生の実践

4 若手教員の変容

5 課題

6 質疑応答

今後の課題

生徒指導内在化サイクル

児童生徒を見取る力の維持・向上

自己指導能力の獲得を支える

それを具現化する 各教科等の
目標の達成を伴う 生徒指導としての機能ある
手立ての案出・選択

日常化

教師の学びに共に取り組む仲間の必要性

学習指導と生徒指導が一体化した授業づくり

～授業を通して自己指導能力の獲得を支える～



京都市総合教育センター
研究課 研究員 太田 耕二

資料① 児童アンケート（例）

児童アンケート

このアンケートでは、みなさんが毎日の生活について日ごろどのように感じているのかをふり返ります。みなさんのアンケート結果をもとに学級での生活をよりよくしていくことが、このアンケートの目的です。
あなたの感じていることに当てはまる1から4の数字のいずれかに○印をつけてください。

全	あ	少	よ
然	ま	し	く
あ	り	あ	あ
て	て	て	て
は	は	は	は
ま	ま	ま	ま
ら	ら	ら	ら
な	な	な	な
い	い	い	い

①	授業がおもしろく、よくわかる。	1	2	3	4
②	授業で自分の発言が取り上げられたり、紹介されたりする。	1	2	3	4
③	先生は、自分のいいところを認めてくれる。	1	2	3	4
④	友達は、自分のいいところを認めてくれる。	1	2	3	4
⑤	先生は、よく話しかけてくれる。	1	2	3	4
⑥	先生は、私のことをよく理解し、大切にしてくれる。	1	2	3	4
⑦	友達は、私のことをよく理解し、大切にしてくれる。	1	2	3	4
⑧	クラスみんなで授業をつくられている。	1	2	3	4
⑨	ペア・グループ・集団での話し合いをすることは、お互いのよさを認め合うことにつながっている。	1	2	3	4
⑩	クラスのみんなが同じ目標に向かってがんばっている。	1	2	3	4
⑪	友だちと話し合うことで、考えを広めたり深めたりすることができる。	1	2	3	4
⑫	先生に自分の悩みや困りを相談しやすい。	1	2	3	4
⑬	友だちに自分の悩みや困りを相談しやすい。	1	2	3	4
⑭	授業中、一人で調べたり、考えたりする時間が十分にある。	1	2	3	4
⑮	ペア・グループ・集団でお互いの考えを話すことで、自分の考えを整理している。	1	2	3	4
⑯	授業で、問いに対する自分の考えをもてている。	1	2	3	4
⑰	生活目標や学級のルールなどは、自分たちで決めて振り返っている。	1	2	3	4
⑱	自分の考えを伝えたいと思える場面や機会がある。	1	2	3	4
⑲	先生は、クラスの友だちのことをたくさんほめている。	1	2	3	4
⑳	先生は、人を傷つける発言などを厳しく注意する。	1	2	3	4
㉑	このクラスでは、失敗や間違いを恐れずにチャレンジできる。	1	2	3	4
㉒	クラスは居心地がいい。	1	2	3	4
㉓	休み時間は、先生と遊んだり、話したりすることが楽しい。	1	2	3	4
㉔	休み時間は、友達と遊んだり、話したりすることが楽しい。	1	2	3	4

資料② 教員アンケート（例）

教員アンケート

名前（ ）
月 日（ ）

クラスのこと、授業のことについて質問します。
以下の項目は、あなたの感じていることにどの程度あてはまりますか？
1 から 4 の数字のいずれかに○印をつけてください。

全くあてはまらない	少しあてはまる	あまりあてはまらない	よくあてはまる
-----------	---------	------------	---------

自己存在 感受の	①	「わかる授業」、「面白い授業」になるように工夫している。	1	2	3	4
	②	一部の児童だけで授業を進めず、つぶやきや誤答を大事にし、それらを 生かしてコーディネートしている。	1	2	3	4
	③	児童のよいところを積極的に伝え、児童同士がよいところを伝え合う場面や 機会を設けている。	1	2	3	4
	④	毎日多くの児童と会話している。	1	2	3	4
人間関係 的な育	⑤	児童の実態を把握し、一人一人を尊重している。	1	2	3	4
	⑥	学び合いになるように発言をつなげ、授業をコーディネートしている。	1	2	3	4
	⑦	ペア・グループで、お互いのよさを認め合える場面や機会を設けている。	1	2	3	4
	⑧	互いに認め合い、高め合う学習集団になるように取り組んでいる。	1	2	3	4
場 の決	⑨	考えを交流することの価値を児童に伝えている。	1	2	3	4
	⑩	児童が不安や困りを相談しやすい環境をつくっている。	1	2	3	4
	⑪	一人で調べたり、考えたりする時間を十分に設けている。	1	2	3	4
	⑫	ペア・グループ・集団で互いの考えを共有し、自分の考えをより確かなものに できる場面や機会を設けている。	1	2	3	4
安全・安 心の醸	⑬	多様な考えを引き出す発問を工夫している。	1	2	3	4
	⑭	生活目標や学級のルールづくりに児童が参加し、振り返る場面や機会を 設けている。	1	2	3	4
	⑮	児童が自分の考えを伝えたいと思えるような場面や機会を設けている。	1	2	3	4
	⑯	一人一人の良い点や成長を実感できるように児童に声をかけている。	1	2	3	4
そ の 他	⑰	人権に関わる児童の発言や行動に対して毅然とした態度で指導している。	1	2	3	4
	⑱	失敗や間違いを恐れずにチャレンジできる場面や機会を設けている。	1	2	3	4
	⑲	児童同士や教師と児童が信頼関係を築けるように努めている。	1	2	3	4
	⑳	休み時間中に児童と話したり、遊んだりする時間を設けている。	1	2	3	4
	㉑	授業を計画・準備することが楽しい。	1	2	3	4
	㉒	授業をすることが楽しい。	1	2	3	4
	㉓	授業中、児童は生き生きとしている。	1	2	3	4
	㉔	クラスの児童について同僚に相談している。	1	2	3	4
	㉕	授業について同僚に相談している。	1	2	3	4
	㉖	授業の中で児童が自己指導能力を獲得していると感じる。	1	2	3	4
	㉗	生徒指導と聞いて、イメージすることは何ですか。				
	㉘	授業を行う上での悩みは何ですか。				

☆教員チャレンジシート☆

年 組 担任 ()

クラスの現状

目標

授業をします！

手立て

手立て案

1年間の振り返り

『道徳科』授業づくりシート

指導者（〇〇 〇〇）

1 日時 令和6年7月15日 5校時

2 学年・組 5年4組 （児童34名）

3 学校教育目標・学級目標

学校教育目標

夢に向かって 自分を大切に し 他とのつながりを大切にできる子の育成
～一人一人が輝き 愛される子の育成～

学級目標

4 児童の実態・本時の設定理由（7月時点）

話し合い学習では、自分とは違う意見から学ぶ楽しさや大切さを感じながら学習している児童も多い。しかし一方で、自分の考えが絶対に正しいと主張して譲れない姿や、友だちの失敗に対して過激に反応する姿も見られる。その一部の児童が休み時間の遊びも強引に決めていく様子もある。本時では、相手の意見を最後まで聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考えようとする姿勢を育てていきたい。そうすることで、学級目標である優しさがあふれるクラスにつながると考えている。

5 本時について

（1）教科 道徳科

（2）題材名 折れたタワー

「支える」シート【全7項目】より抜粋し、手立てを記入

（3）生徒指導上の重点項目（「支える」シート【全7項目】より）

「自己決定の場の提供」

○多様な考えを引き出す発問の工夫

中心発問の後に、児童から正しい答えが返ってくることが予想される。正しい答えが本音だとは感じれない際には、「マスクを忘れたときは、許してもらえなかったんだよね。それでも許そうと思えるの？」「何でも許すことが広い心なの？」などと問い返すことによって、広い心についてより深い考察を引き出したい。

「共感的な人間関係の育成」

○発言をつなげ、集団での学び合いになるようなコーディネート

相手の意見を最後まで聞き、相手の立場に立って考え、深めようとする姿勢を育てていきたい。自分の意見しか認めないような発言が出た際に、教師が反対意見を述べることで、学び合いにつなげる。

(4) 本時のねらい

誰にでも失敗があることを理解したうえで、相手の失敗を許そうとするひろしの思いを捉えることを通して、相手の立場になって、広いい心で許そうとする心情を育てる。

(5) 本時の展開

【自己決定の場の提供^決 自己存在感の感受^存 共感的人間関係の育成^共 安全・安心な風土の醸成^安】

○学習活動 ◆発問 ・児童の反応	◇支援 ＊留意点個別支援 ◎重点項目
導入 1 学習への導入をする。 「これは許せますか、許せませんか。」 ・許せる ・許せない ・わからない めあて 広いい心について考えよう	◇日常の生活場面を取り上げ、終末に向けてのねらいとする価値につなげようとする。 ^決 ◇支援＊留意点個別支援 ◎重点項目の中で、生徒指導面で自己決定の場の提供 ^決 自己存在感の感受 ^存 共感的人間関係の育成 ^共 安全・安心な風土の醸成 ^安 を意識して取り入れている際は記載する。
展開 2. 自分がひろしだったらどうするかについて考え、話し合う。 「耐っても許してくれそうもない時のひろしは、どんな思いだったでしょうか。」 「自分がひろしだったらのりをお『許せない』か『許そう』を考えよう。」	＊許してもらえなかった時の気持ちに触れることで、クワーを横したのりおに対する許すことができない気持ちにつなげる。 ◇自分の立場を明確にして話し合えるよう、心情メーターを操作する。 ^決 ＊ペアでの話し合いをすることによって、お互いの良さに気づき、認め合えるようにする。 ^共
3. ひろしがのりおを許そうとした理由を考え、話し合う。 ◎どうしてひろしは、のりおを許そうとしたのでしょうか。	◎「何でも許すことが広いいなの？」などと問い返す。 ^決
終末 4. 今日の学習で学んだことや考えたことを振り返る。 「今日の学習を終えてひろしから学んだこと、これらの自分にかいていきたいことなどを振り返りに書きましよう。」	◇最後にもう一度心情メーターの割合を確認し、変更したい児童には声をかける。 ^決

(6) 評価

誰にでも失敗はあることを受け止め、相手の立場になって、広い心で許そうとする思いを高めている。【道徳的心情】（ワークシートや発表）

教師が⑥多様な考えを引き出す発問の工夫ができていた。

教師が④発言をつなげ、集団での学び合いになるようなコーディネートができていた。

(7) 板書計画

第 回 道徳

折れたタリ

広い心について考えよう

謝っても許してもらえない

- ・ 謝らなければよかった
- ・ 誰だって忘れ物をすることがあるのに
- ・ 許してほしい

☆自分だったら・・・

許せない

許そう

どうしてひろしは、のりおのことを許そうとしたのだろうか

- ・ 相手のことを考えたから
- ・ わざとではないから
- ・ 誰だって失敗してしまうことがあるから
- ・ 落ち込んでいるのりおを悲しませたくないから
- ・ 優しい心があったから





グループ事後校討会を終えての振り返り

- ・ 問い返すことで、広い心についての考えが深まり意見交流につながった。
- ・ 子ども達がたくさん発言し、つぶやいてくれたが、どの意見を取り上げたらいいのか分からなくなかった。
- ・ 明日からは教科としてのめあてと合わせて、自己存在感を高めるよう、つぶやきを大切にし、子どもと一緒に授業をつくっていききたい。

グループ事後校討会を終えてから授業者、参観者が記入する。

授業者は、良かった点や改善点、子どもの変化や新たな気付きなどを記入する。

参観者は、参観・校討を終えて気付いたことや自分にも取り入れていきたいことなどを記入する。



「支える」視点シート



自己存在感の感受

- 「わかる授業」・「面白い授業」になるような工夫
- 一部の児童の発言だけで授業を進めず、つぶやきや誤答を大事に生かしたコーディネート

共感的な人間関係の育成

- 友だちの考えを最後までしっかりと聞き、受け止められるような声かけ
- 発言をつなげ、集団での学び合いになるようなコーディネート

自己決定の場の提供

- 一人学びの時間を確保し、ペア・グループ・集団で互いの考えを共有し、自分の考えがより確かなものになるような場面や機会の設定
- 多様な考えを引き出す発問や問いの工夫

安全・安心な風土の醸成

- 良い点や成長を実感できるように声をかけ、失敗や間違いを恐れずにチャレンジできる場面や機会の設定